

参加記念として私は色紙にいろいろな速記文字画を書いて渡していたのです。参加記念品として何か渡そうとすると費用が大変、色紙だったら色紙代だけですむのでそうしていたのです。ところが十四回目だったか、参加費は取らないうえに参加記念の色紙が三百枚もいるようになったのです。参加した選手だけでなく、顧問の先生や指導していたOBの人たちまでに渡すので、それが三百枚を越すようになったのです。色紙代も大変、速記文字画を書くのも大変になったのです。ところがそのとき、「珠算その他いろいろな競技会ではみな参加費を取っている」といって私の方でも取ったらどうかと勧める人があったのです。それで、色紙の代わりに速記文字画を書いたバッジを渡すようにしようと思い、バッジ代として百円取ることにしたのです。しかしその後だんだん経費がかさみ、大きな赤字を続けるので事務のほうで参加費を少しずつ上げるのです。私は参加費を取ることさえ好まないもので、一時参加費を下げさせたこともあったのです。しかしどうしても経費がかさむ、大きな赤字になるからといって参加費を上げるようにといわれ、仕方なく上げて今日にいたっているのです。

今年（昭和六十三年）の夏の全国大会は五十八回目、春の選抜大会は二十回目です。選抜大会はもともと早く始めておくべきだったのを遅れたのは残念でした。高校野球の大会は、夏の選手権大会も、春の選抜大会も六十回を越していますが、私の大会より十年ぐらい早く始めているのです。高校生が参加する競技